

性同一性障害者の自意識

—性別適合手術前の Male-to-female および Female-to-male を対象とした質問紙調査—

○長坂晟¹⁾ 伊藤武彦²⁾

(¹⁾ 明治学院大学大学院心理学研究科 (²⁾ 和光大学現代人間学部)

Keywords : 性同一性障害, MTF, FTM, 公的自意識, 私的自意識

問題・目的 gender identity disorder の略語である GID は医学的疾患であり、生物学的性別 (sex) と性の自己意識・自己認知 (gender) が一致しない状態である。GID の特徴として、手術前の外見や戸籍の性別と本人の性自認が合致しないため、カミングアウトやパッシング (外見や態度、振る舞いがいかに反対の性別のものに見えるか、塚田, 2004) ができず、他者からの見られ方に対する過敏性、自分自身について考えることが多いことが挙げられる。菅原 (1984) は、対人不安意識の強い者及び自己顕示性の著しい者は、他者からのまなざしに対する正反対の反応特徴を持つこと、つまり他者の目に映る自分を強く意識しやすい人は、積極的自己呈示行動か、逆に防衛的・逃避的行動を取りやすいと指摘している。以上のことから、本研究では性同一性障害当事者群 (以下、GID 群とする) と非当事者群 (以下、Non-GID 群とする) に分け、心理的な問題として自意識を取り上げ、心理的特徴を明らかにし Non-GID 群と比較検討を行い、相違点を見出すこととする。

方法 GID 当事者である FTM34 名, MTF37 名の計 71 名と、Non-GID 女性 42 名, 男性 30 名の計 72 名に対して 2004 年 6 月下旬から 10 月中旬に質問紙を行った。倫理的配慮のもと当事者には直接依頼して記入、回収し、非当事者にも同様に直接依頼、記入されたものを回収した。自意識については、菅原(1984)の 21 項目 7 件法から成る自意識尺度を用い公的自意識と私的自意識を測定した。当事者のみ、性同一性障害と治療に関する項目をたずねた。

結果 自意識 21 項目について GID 当事者と Non-GID143 人におい因子分析 (主因子法・バリマックス回転) を行ったところ、2 因子に分かれ、項目を検討すると、菅原 (1984) の因子構造と同一の結果が得られた。F1 は公的自意識、F2 は私的自意識であった。GID 群 (FTM, MTF)、Non-GID 群 (Female, Male) における自意識の平均値および標準偏差について、Table.1 に示す。

考察 GID は Non-GID よりも自意識が高いという結果は、日常生活における周囲からの無理解、同性愛との混同などが原因と考えられる。牛島 (1999) によれば、性同一性障害者は周囲からの偏見や誤解されることにより外傷体験をして不安を増強させている。このような外傷体験をしないよう、自分が周囲に与える印象や周囲からの評価を考えながら行動するため、高い公的自意識得点となったのであろう。また、当事者は性同一性障害であるか否か考えることが多く、答えを得ようと来院するケースも多い (阿部ら, 2003)。このように当事者は Non-GID に比べ、生活の中で自己に目を向ける傾向が強く私的自意識が Non-GID より高くなったのであろう。

そして、公的自意識は MTF より FTM が高かったが、一つの原因として年齢が考えられる。本調査における FTM は低年齢が多く、MTF は高年齢が多かった。周囲を気にし始める思春期頃は、周りからの評価に最も敏感になる時期であり公的自意識は上がる。つまり、高年齢の MTF より低年齢の FTM の公的自意識得点が上がったといえる。さらに、治療段階についても言及できる。MTF は身体的加療を行っており、女性的外観を獲得し性自認に近づきつつあるが、FTM は身体的加療に至っていないケースが少ないことから、身体的外観が性自認と合致しておらず、人からの見られ方に過敏になっているのであろう。また、MTF に比べて FTM は幼少期から性別に違和感を抱いている、いわゆる中核群であるケースが多いとの報告もあり (中塚ら, 2003)、MTF に比べ早期より周囲の目や評価を気にし始めると考えられる。一方で、支持されなかった私的自意識は、自己内省することであり、個人差が影響しやすいものと考えられる。また、FTM・MTF とともに、今の自分や今後の治療方針など、GID に関する事柄を常に考えており、両者に差がみられない結果となったと推察できる。

主要引用参考文献

菅原健介 1984 自意識尺度(self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究, 55, 184-188.
(ながさか のぼる・いとう たけひこ)

Table.1 GID (FTM・MTF)、Non-GID (Female・Male) における自意識の平均値と標準偏差

	FTM (34名)	MTF (37名)	Female (42名)	Male (30名)	多重比較 (Scheffe)	GID(71名) (FTM+MTF)	Non-GID(72名) (Female + Male)
公的自意識	5.71 (1.34)	4.80 (1.14)	4.70 (.73)	4.04 (1.17)	FTM>MTF, Female, Male $F_{(3,139)}=12.634^{***}$	5.23(1.32) $t_{(141)}=4.159^{***}$	> 4.43(.99)
私的自意識	5.75 (0.69)	5.30 (.08)	4.83 (.62)	4.25 (1.17)	FTM>Female, Male FTM, MTF, Female>Male $F_{(3,139)}=19.659^{***}$	5.52(.78) $t_{(141)}=6.442^{***}$	> 4.59(.94)

*** p<.001